

びいあらいぶ Be Alive!

2016年 1月 2 月号

発行元：パルシステム共済生活協同組合連合会
共済事業部『びいあらいぶ』編集委員会

パルシステムの保障

<http://www.palsystem-kyosai.coop/>

パルシステムの保障

検索

脈々と受け継がれる

「助け合う」気持ちの大きな力。

パルシステムは消費生活協同組合です。

「消費生活協同組合」というのは私たち一人ひとりがお金(出資金)を出し合い、「こんな商品やサービスがほしい」といったくらしのなかの希望を、力をあわせて実現する組織。一般的なスーパーマーケットなどと大きく違うのは、その商品やサービスは出資金を出した組合員が利用でき、また、さまざまな「場」に組合員自身が参画して組合を発展させていく、という点です。

市民が自分たちの生活のために助け合う

もともと日本には「消費生活協同組合」という考え方や組織はありませんでした。明治時代、「生協の父」と呼ばれる賀川豊彦という人物が、当時神戸市にあった貧民街(スラム)に自ら移り住み、無料診療所を作るなど貧しく生活が苦しい人々の救済活動を始めました。しかし、困窮者はいっこうに減らず、一時的な救済では解決にならないと痛感します。

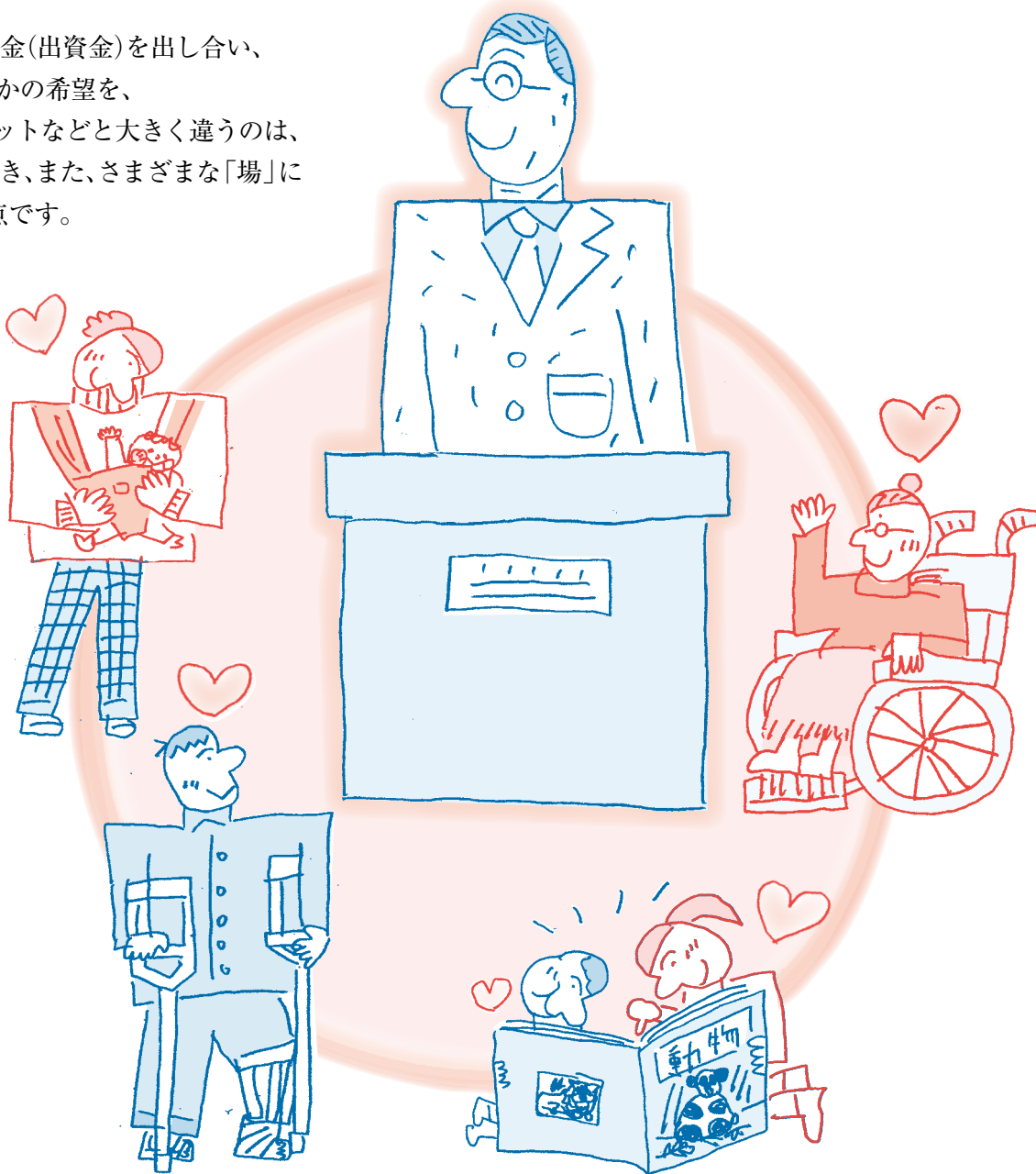
賀川氏は、生活に困っている人を無くすには貧困を防ぐ社会の仕組みが必要だと思い立ち、市民が互いに助け合い生活の改善を目指す「労働組合」や「農民組合」「消費組合」の創設に力を注ぎはじめます。その結果、大正10年に現在の生活協同組合の前身ともいえる「神戸購買組合※」が誕生。その後、生活協同組合は日本各地で設立されることになります。

賀川氏は引き続き、各種組合や共栄火災海上保険会社の母体組織の設立にも携わりました。

※後に創設された灘購買組合と合併し「灘神戸生活協同組合(現・生活協同組合コープこうべ)」に。

創設時の思いは受け継がれ、さらに発展を

このように、生活協同組合は「よりよいくらしのため、互いに助け合う」気持ちから生まれまし



た。日々のくらしに欠かせない食品や日用品の供給だけでなく、共済や介護、冠婚葬祭など、組合員のくらしに必要なさまざまなサービスを、組合員の目線で生み出し、組合員の力(出資金)で運営しています。

また、日常生活のなかだけでなく、災害発生時などにもこの「助け合う」力が発揮されています。

神戸に住んでいた賀川氏は、関東大震災が発生した際いち早く東京入りし、被災者の救援活動に奔走しました。その精神は現在の生活協同組合にも受け継がれ、地震や竜巻、水害など大規模災害が起こった際は、物資の支援や義援金の募集など、積極的に支援活動を行うとともに、共済という形でも被災時の保障を行っています。

★パルシステム共済連の保障事業(共済/保険)

私たちのパルシステムもこのような思いを受け継ぎ今日に至っています。組合員がみんなでお金(掛金)を出し合い、万が一の病気やケガ・災害にあわれた組合員へ集めたお金(掛金)を共済金としてお支払いすることで、「助け合う」を形に

したのが“共済”。共済だけではカバーしきれない範囲や保障額を補完するための“保険”。共済と保険を充実することで、組合員のくらしの安心を深められるような運営を心がけています。